

奈良市子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」からの報告

The Report of Regional Child Raise Support Center Yumenooka SAHO

石田 裕子 石田 伸子 潮谷 光人
ISHIDA Yuko ISHIDA Nobuko SHIOTANI Kojin

奈良佐保短期大学の構内には、2009年11月から、奈良市より委託された奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」がある。厚生労働省によると、「地域拠点事業とは、少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化、男性の育児参加率が低いことなどを背景として、子育て不安の増大、育児の孤立化、子どもの多様な人との関わりの機会が減少という課題を解消するため、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みなどを相談できる場を設立することを目的とした物である」¹⁾。また、「地域子育て支援センターとは、厚生労働省の地域子育て支援拠点事業のなかの、ひろば型、センター型、児童館型に分けられていたなかの一つの形態であり、地域の子育て支援情報の収集・提供に努め、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点として機能するとともに、既存のネットワークや子育て支援活動を行う団体等と連携しながら、地域に出向いた地域支援活動を実施することを目的とするものである」²⁾と定義されている。

本稿は地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」設立の2009年11月から2013年12月までの活動の報告を行うことを目的とする。

キーワード：子育て支援センター，奈良市，地域子育て支援事業

Key Words：Regional child raise support center, Nara City, Child Care Support Service

1. 設立の経緯

奈良佐保短期大学幼児教育科は、2010年度から地域こども学科に名称変更することとなっていた。その目的の一つとして地域に根ざし、地域と結びつく力をもった学生を育てるということがあった。また、大学の社会的役割として、地域と連携し地域に開かれた大学にすることが求められており、当時の専攻科長で、看護師・保健師の資格を持つ奥田眞紀子、地域こども学科教員で社会福祉士の資格をもつ潮谷光人、幼稚園教諭・保育士資格を持つ和田公子の3名の教員を中心として、地域子育て支援センター設立を進めることとなった。

その際、本学が行う地域子育て支援センター事業の特徴として、以下の6つを掲げた。

1. 環境を活かした子育て支援の取り組みを行う
2. 交流の場としての機能を重視する
3. 子育ての総合相談窓口となる
4. 父親支援への取り組みを行う
5. 地域の拠点作りを行う
6. つどいの広場との連携・支援を行う

以上の特徴を取り入れた事業計画が認められ、大学として、奈良市より地域子育て支援センター事業を受託することとなった。

地域子育て支援センター長として、奈良佐保短期大学の非常勤教員である、石田伸子が就任することとなった。石田は長年幼稚園教諭として幼児教育に携わり、さまざまな親子と向き合って子どもの育ちを支えてきた。また幼稚園教諭退職後には、奈良佐保短期大学に専任教員として勤務し、保育者養成にかかわってきた経験を活かすことを期待されての就任であった。子育て支援センタースタッフには、保育士資格や幼稚園教員免許状を所有し、保育現場経験のあるものが採用された。また、大学内では様々な資格を持つ教員が子育て支援センターのバックアップ担当として任命され、子育て支援センタースタッフと月に一度のミーティングを行い、支援が必要なケースの検討や、支援内容の確認、大学と支

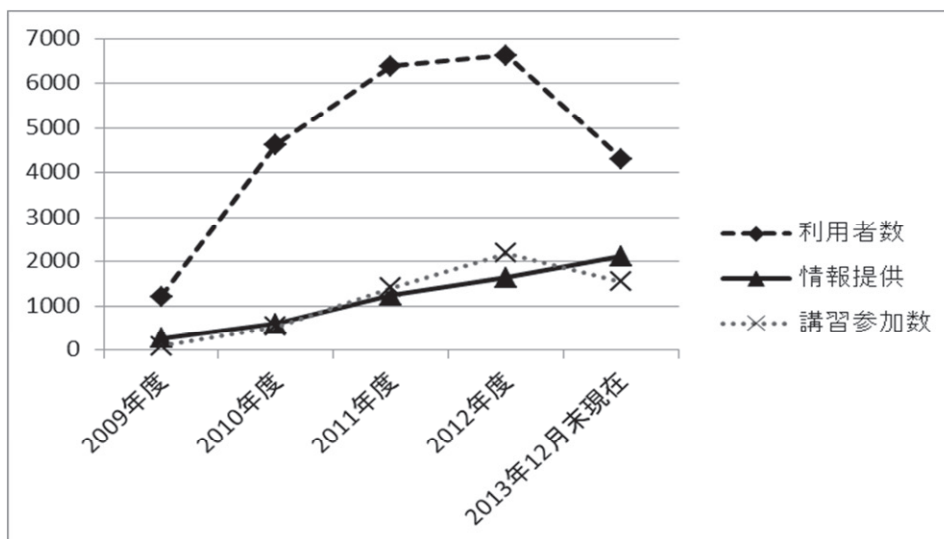


図1 利用者数および、子育て関連情報の提供数、講習会参加者数

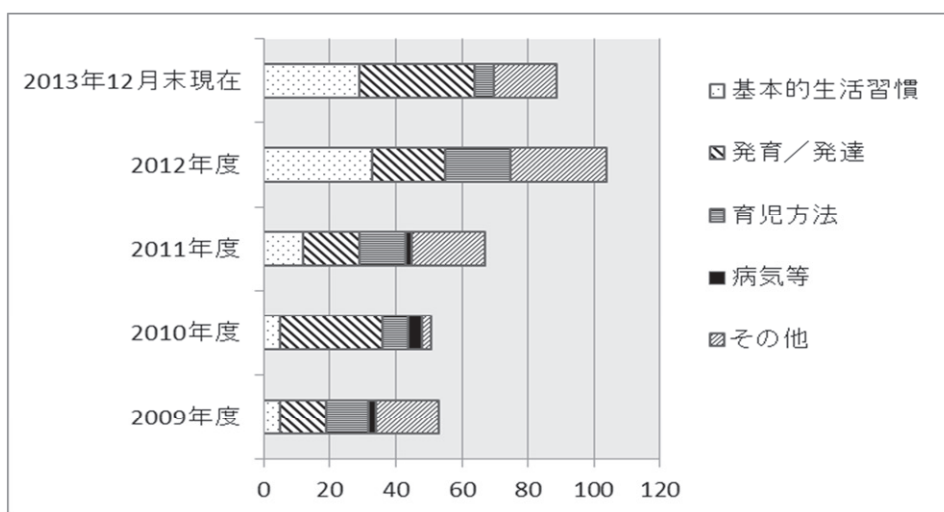


図2 相談件数と相談内容

援センターの調整についての会議を開催している。2013年度は石田裕子（保育士・幼稚園教諭）潮谷光人（社会福祉士）島村知歩（栄養士）安永龍子（看護師・保健師）和田公子（幼稚園教諭・保育士）が担当している。

2. 利用者数及び相談件数と相談内容、講習会の参加者数

図1は年間の利用者数、子育て関連情報の提供数、講習会の参加者数である。2009年度は5か月間のデータ、2013年度は12月までの9か月間のデータであるが、年々各件数が増加している。

図2は相談件数と相談内容のグラフである。件数としては、図1と同様増加傾向にあるが、簡単なやりとりで相談が解決した場合は計上しておらず、深刻な相談、また予約相談や、大学教員の相談日の相談等を主に計上している。内容は基本的な生活習慣や、発育、発達、育児方法に集中している。

3 相談支援の実際

3-1 環境を生かした子育て支援の取り組み

(1) 室内環境の整備

支援センターの広場スペースは84㎡の広さがある3号館1階の教室を改装し、整備した。

子どもが体を動かしたり、飲食も可能なフローリングのスペースと、匍匐が可能な畳のスペースに分けられている。また、玩具は安全性と、子どもの発達を考えた木製玩具を中心にそろえており、スタッフによる布や廃材を利用した手作り玩具も用意している。図書は低年齢児向けの絵本や保護者向けの本を奈良佐保短期大学図書館と連携し、閲覧できるようにしている。また支援センター独自にも絵本を中心にそろえている。

(2) 屋外環境の整備

センター内だけではなく、グラウンドで生き生きと子どもが遊ぶ姿がよく見られたことより、2011年に自然広場に子ども用の遊具を設置した。2013年春には大学のグラウンド内に低年齢向けの遊具を設置した。2012年度からは花壇や菜園を整備したが、このことについては(3)で詳細を述べる。

(3) 自然環境を生かした支援

設立当初から自然豊かな大学内を親子連れが散歩をする姿があった。またスタッフがドングリや木の枝を使った作品を掲示し親子の関心を集めていた。そこで、自然と触れ合う機会を増やせるように2012年度から、支援センター前の花壇を整備し、花を育てることにした。これによりスタッフが水やりをしている姿などに親子連れが声をかける姿も見られるようになった。2013年度には、さらに花壇を整備し、菜園を増設した。ジャガイモの収穫から始まり、夏にはミニトマトやピーマンを育て、来所した子どもに収穫をさせるという体験を行ったところ好評で、「子どもが喜んでトマトを食べた」という報告があった。初夏にはサツマイモを植え、秋に収穫体験を行ったところ、子どもだけではなく、親自身も初めての体験であるとの喜びの声が寄せられた。2013年冬はエンドウ、人参、大根が植えられている。子どもたちと水やり等を行いながらスタッフは菜園の手入れを行っている。

3-2 交流の場としての機能

子育て支援センターは正門を入ってすぐ近くの3号館1階に開設された。学内駐車場も自由に利用できるようになっていた。また2012年度には乳幼児連れが利用しやすいように子育て支援センター前に子育て支援センター専用の駐車場5台分を整備した。室内は84㎡の十分な広さがあり、ゆったりとくつろげるようになっていた。昼には学生レストラン「鹿野園」で学生用ランチが学内向け価格で利用できる上、レストランには子ども用の椅子や食器も用意されている。そのため、昼を挟んで長時間滞在する親子が多い。

3-3 相談体制

子育て支援センターが受けた相談件数と相談内容を図2「相談件数及び相談内容」で挙げた。相談の深さは、ちょっとした疑問や不安に答えて欲しい、というものから一対一で対応する必要がある深刻なものなどがある。様々なニーズに対応できるように相談体制として、直接来所しての相談、電話での相談、電話での相談予約、また奈良市保健センターなど他機関からの紹介などを用意している。また月に一度大学の教員による相談日も設定しており、その日に来所されることもある。2013年度相談担当大学教員及び内容については表1の通りである。

相談については、まず幼稚園教諭や保育士の有資格者であるスタッフが行う。その場で解決する場合は図2の相談件数に計上していない。利用者がさらなるアドバイスを求めるときは、センター長や大学教員が日時を決めて、対応を行う。相談室は集いのスペースとは

表1 2013年度ゆめの丘 SAHO 相談担当大学教員及び内容

担当者(専門分野)	相談内容
池内ますみ(食品学・調理学)	食育及び食物アレルギー相談
石田裕子(乳幼児心理学・幼稚園教諭・保育士)	発達相談
潮谷光人(障害者福祉論・社会福祉士)	家族・社会福祉相談
安永龍子(在宅看護・看護師・保健師・養護教諭)	保健及び介護相談
和田公子(保育内容・幼稚園教諭・保育士)	育児相談及び入園・入学前相談

別に設定されているので、必要がある場合には、別室で話を聞く体制をとることができる。また、相談の内容が多岐にわたる場合、教員が複数で話を聞くこともある。例えば、離婚の制度と子どもへの心理的影響の場合であれば、潮谷光人、石田裕子の2名で対応した。

電話による相談も大きな役割を果たしている。多くはセンター長が対応しているが、家から出かけられない事情を持つ母親が、何度かセンター長による電話相談をすることで、支援センターに来所し、話をすることができるようになったという事例もあった。

相談の内容は、潮谷の作成した相談表1（別表1）に記入を行い、さらなる支援や深刻な相談の場合は相談表2（別表2）で個人別に記入する。さらに必要があれば、事例検討シート（別表3）で検討を行う。これらの相談をスタッフが確認し、把握することで来所する親子を見守っており、必要とあれば、声を掛ける体制を整えている。

3-4 父親支援の取り組み～ファミリーデーの実施

父親支援の意味で、父親が参加しやすいよう月に一度第2土曜日にファミリーデーを設定している。父親が子育てに主体的に関われるように、遊びの講座や、はじめて子どもが産まれる家族向けの講座等を開催している。設立当初は、父子世帯支援も視野に入れた事業も想定していた。しかし厚生労働省による平成23年度厚生労働省全国母子世帯等調査結果報告によると父子世帯となった時点の末子の年齢平均が6.0歳という現状もあり、就園前の親子を支援対象とする子育て支援センターでは、支援対象者数が多くない上、父親のみ対象の講座を開催するも参加者数が伸び悩んだこともあり、現在では家族と一緒に父親も参加しやすいということでファミリーデーとしている。

3-5 地域の拠点作り

(1) 出張講座交流会の実施

地域に出かける活動として、定期的に出張子育て講座を行っている。2013年度は南部公民館に出張し、石田伸子や和田公子（表2）による子育て講座や子育て相談を行い、後述の「ゆめわくわくリズム」を行った。2013年度からは、地域の支援の必要な家庭との連携を目指して、児童館への出張も行い、子育て講座、相談等を行った。

(2) 奈良県子育て支援事業モデル拠点としての役割

「ゆめの丘 SAHO」は、2013年度に奈良県子ども女性局子育て支援課の奈良県地域子育て支援事業において、自治体からの委託型子育て支援センターとして、モデル拠点としての指定を受けた。

また奈良県は、奈良県地域子育て支援拠点運営マニュアルを作成し、子育て支援者がだれでも支援プログラムが実施できるようパワーポイントを用いた支援プログラムを作成している。すでに「乳児期編」と「祖父母編」を作成しているが、新たに2013年度「幼児期編」の作成を計画した。石田裕子が、その作成委託を受けたこともあり、9月及び12月にプログラム実施をゆめの丘 SAHOの利用者を中心に行った。また大学が地域子育て支援センターを有している珍しい事例ということで、県外の自治体よりの視察も受け入れている。

表2 2013年度出張講座の実施

講座内容	講師	参加者数	場所
センター長による講座と ゆめわくわくリズム	石田 伸子 山本 三歌代	56	南部公民館
講座「こどものこころ」 出張子育て相談とゆめわくわくリズム	和田 公子 山本 三歌代	50	奈良市東人権 文化センター
ゆめ・わくわく・リズム in 南部公民館	山本 三歌代	54	南部公民館
講座「昔話をしてみませんか」 出張子育て相談とゆめわくわくリズム	和田 公子 山本 三歌代	54	南部公民館

表3 センター長ミニ講座テーマ一覧

2010年度	2012年度
1. 子どもの探究心・冒険・いたずら	1. 子どもとお話し
2. しつけについて	2. 楽しい食事
3. 褒め方・叱り方	3. 子どものやる気としつけ（トイレトレーニングを含む）
4. 友達ってむずかしい!?	4. 子どもの良いところを見つけましょう
6. ことばについて	5. 子どもはほめると育つ ～上手な叱り方～
7. 創造性を育てる	6. 遊び・仲間・トラブル
8. お片付け	7. 子どもとおもちゃ
2011年度	2013年度
1. よい生活のリズムは健康のもと	8. してほしいこと・してほしくないこと・してはいけないこと～子どもへの伝え方～
2. おやつについて考える	9. 子どもと言葉
3. 自然と仲良し	1. しつけについて
4. 知育について	2. 家族
5. ひとりできるよ	3. 絵本とお話
6. しつけについて	4. 上の子, 下の子 ～関わり方～
7. 兄・弟・姉・妹	5. おえかき
8. 人とかかわり	6. 早期教育?
9. 子離れ・親離れ	7. たべること
10. 家族	8. 笑顔で子育て
11. 子どもとことば	

(3) 子育て支援センターに関する広報活動

センター通信を年4回発行し、センター長や大学教員からのメッセージ、取り組みの紹介、イベント予定の掲載を行っている。また、ウェブサイトにも活動内容や相談日がわかりやすく掲載されており、子育て支援センターの取り組みが外からもわかるように工夫されている。

(4) 講習および講座の実施

講習の参加人数は図1で挙げたとおりである。特色的な活動について説明する。

①センター長ミニ講座

毎月約1回保護者のニーズに合ったテーマを決めて開催している。保護者あるいは保護者同士が情報交換する場として活用している。毎回アンケートを実施し、保護者の満足度や今後取り上げて欲しい題材を探り、次回のテーマ設定に活用している。講座中はセンター長が進行役を務める中で保護者の思いを引き出し、話をするよう促すことで、保護者同士を繋ぐ役割も果たしている。これまでの講座の内容については、表3に示す。

②教員による講習および講座

大学の地域貢献の一環として、大学教員による、子育て中の親子や、子育て支援者に対して講習会を開催している(表4)。これらの一部は、奈良県内の保育士養成校が参加する奈良県事業「なら子育て大学」の講座としても開催した。

③その他の講座及び講習

外部講師の山本三歌代氏を迎えた「ゆめわくわくリズム」は毎月1～2回実施し多くの参加者親子を集めている。山本氏は日本フィットネス協会や日本マタニティフィットネス協会など複数の協会に所属し、音楽に合わせてのふれあい遊びや体を動かす楽しさを講座で伝えている。子どもたちも喜んで元気に参加し、人気の講座である。

またボランティア「のはらうた」や「わらべうた」による親子向けの歌やふれあい遊び、人形劇の実施、ハンドベルコンサート等も行われ、参加者から好評を得ている。

表4 2013年度本学教員による講習及び講座

講習名	講師	参加者数
親子かけっこ DAY	村田 トオル	47
親子かけっこ DAY	村田 トオル	63
おじいちゃんおばあちゃんのための講座（奈良県プログラム）	石田 裕子	40
イヤイヤ期をのりこえよう（奈良県プログラム）	石田 裕子	19
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	46
子育て支援交流会「奈良県の子育て状況および支援について」	潮谷 光人	16
ならさほ元気っずクラブ Aコース	村田 トオル	69
ならさほ元気っずクラブ Bコース	村田 トオル	40
講座「こどものこころ」、出張子育て相談とゆめわくわくリズム in 奈良市東人権文化センター	和田 公子	50
ならさほ元気っずクラブ A・Bコース	村田 トオル	83
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	51
講座「昔話をしてみませんか」、出張子育て相談とゆめわくわくリズム in 南部公民館（なら子育て大学）	和田 公子	54
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	63
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	35
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	68
親子かけっこ DAY	村田 トオル	10
イヤイヤ期をのりこえよう（奈良県プログラム）	石田 裕子	9
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	35
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	79
ならさほ元気っずクラブ	村田 トオル	37
「語ってみませんか 昔話と創作話」-語ることでつながる親子と子育て支援-（なら子育て大学）	和田 公子	11
子育てに関わる心理学（なら子育て大学）	石田 裕子	17
こどもと一緒におやつを作ろう!!（なら子育て大学）	島村 知歩	12

④その他

大学祭や、地域の親子向けイベントである地域こども学科主催の「こどもフェスタ」開催の際には日程を合わせて開所し、大学を訪れた子育て中の親子がくつろげる空間を提供している。

3-6 つどいの広場との連携・支援

(1) 交流会の開催

お互いの課題や問題を持ち寄り、交流をすることを目的とし、1年に2度、つどいの広場職員や、民生委員、子育て支援者、子育てサークルを対象に交流会を開催している。

(2) 職員研修の公開

月に一度スタッフ全員が集まり、スタッフミーティングをしている。気になる事例を共有し、対応について検討したり、支援体制の確認を行っている。また資質向上のための取り組みとして定期的に研修も行っている。この研修に関しては、奈良市の子育て支援者（子育て支援センター・つどいの広場、地域の支援者や子育てサークル）へも開催案内をしている。研修内容はスタッフの要望を聞き取り決定する。これまでの実施内容は、奈良市内の発達小児科「つくだクリニック」より講師を迎えて開催した子どもの言語発達や発達障害に関する研修、本学の旧教員である臨床心理士かつ社会福祉士の浦田雅夫氏による「子育て支援の場に求められるソーシャルワークの視点～不適切な養育の例を中心に～」、看護師・助産師及び応急手当普及員の資格を持つ森田婦美子氏による「救急救命講習」、臨床心

理士の森重功氏による「保護者支援とカウンセリング・マインド」などがある。旧教員も積極的に子育て支援に携わる職員のスキルアップのため助力いただいている。

4. 学生の学びの場としての役割

地域こども学科の授業「ゼミナール（心と発達）」では、子育て支援センターを訪れる親子を対象に親子が遊んでいる様子の観察・手作り玩具作成・親子へのふれあい遊びの提供などを行っている。学生は保護者と話すことで、子どもの好きな遊びや子どもの気持ち、かかわり方のコツ等をアドバイスいただき、子どもへの理解を深めている。表4で挙げた、村田教員による「親子かけっこ DAY」や「ならさほ元気ずプログラム」では学生も、子どもと関わり、子どもが楽しんで体を動かすことの重要性について学ぶことができた。生活科学科食物栄養コースの学生は島村教員の「講座こどもと一緒におやつを作ろう！！」でアシスタントとして参加した。また石田裕子による保護者向けの奈良県子育て支援プログラム実施の際には、教員やスタッフとともに学生が託児を担当した。いずれも机上での学びと子どもと実際に関わることによる学びを融合させる貴重な機会となっている。

5. 利用者の声

利用者の声としては、空間がゆったりして過ごしやすい、スタッフの人が親切である、学内を安心して散歩することができる、気軽に専門家に相談できる、食堂の利用ができる、車での来所が可能である等が挙げられる。奈良市が2013年9月9日から20日の間で実施した「奈良市地域子育て支援センター広場事業利用者アンケート」の結果を以下にいくつか抜粋する（表5）。参加のしやすさや、スタッフの対応、相談における対応など全般的に高い満足度が示された。

表5 「奈良市地域子育て支援センター広場事業利用者アンケート」より

問2 センター内の子育て親子が集える広場には参加しやすいですか	
とても参加しやすい	21
参加しやすい	17
普通	3
あまり参加しにくい	0
参加しにくい	0
(n=41)	
問3 センターで子育ての相談をしたことがありますか	
ある→問4へ	19
ない→その理由はなんですか	22
特に相談することがない	16
相談しにくい雰囲気ではできなかった	0
その他（相談が苦手、タイミングが合わなかった センターにまだあまり参加していないから）と未回答	5
未回答	1
(n=41)	
問4 相談された時のスタッフの対応はいかがでしたか	
とても満足	12
満足	11
普通	0
やや不満	0
不満	0

6. 現状と今後の方向性

センターのスタッフミーティングやバックアップ担当の会議では、子育て支援者として親に「何を」「どのように伝えていくか」について、話し合われている。保育現場とは異なり、子どもや親に「このようなことを伝えたい」と思ってもそれを全面に出すことはできない。子育て支援センターが求められる役割としては、まずは親子を受容し、そして親の力を信じて待ち、育てることにあるからである。例えば、怒鳴る、叩くなど子どもに不適切と思われる関わりをしている親には、子どもと遊ぶ姿を見せる、子どものよいところをほめる、親の話聞くなどの行動により、親の変容を期待する。このような方法は即時的な効果はないことが多く、スタッフはアドバイスが活かされていないのではないかと、無力感に襲われることがあるが、強く指導をするわけにはいかない。強い指導が行われると親が来所しにくくなり、支援が届かなくなる結果につながるからである。スタッフミーティングでは、スタッフが事例を出し合い、またそれをセンター長がスーパーバイズして、支援の方向性を定めている。困難事例の一つとして、親に自覚のないネグレクトが行われているケースでは、スタッフは、親から問いかけがあった場合に何度も同じアドバイスを繰り返したが、なかなか親の子への対応は改善されなかった。しかしその親からは「ここは、いろいろなことについて強く言われたいから来やすいです」という発言があった。緊急の場合を除いては、じっくりと親の変容を待ちながら少しでも親子が育っていくことができるようにという気持ちでスタッフ一同がかかわっている。

2013年度厚生労働省は地域子育て支援拠点事業を充実させるため、機能別に再編及び、機能の強化を打ち出している。ゆめの丘 SAHO も、地域支援に向けて、機能の充実をするための体制作りに向かっている。特に課題となるのは支援の届きにくい親子へのアプローチである。近隣の幼稚園・保育所、児童館、奈良市の保健センター、ひとり親支援の部署、虐待防止ネットワークとの結びつきを強めていくための試みを始めているところである。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省:「地域子育て支援拠点事業実施ガイド」(2007), <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/gaido.pdf> (2013. 12. 25)
- 2) 厚生労働省:「地域子ども・子育て支援事業について」(2013), p. 10, http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/kodomo_kosodate/b_1/pdf/s9.pdf (2013. 12. 25)
- 3) 厚生労働省:「平成 23 年度全国母子世帯等調査結果報告」(2011), http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-katei/boshi-setai_h23/ (2013. 12. 25)
- 4) 「奈良市地域子育て支援センター広場利用者アンケート結果 (ゆめの丘 SAHO)」

付表2 相談表

相談票			
			相談票番号 ()
日付	平成 年 月 日	受付者	
新規／継続	・ 新規	・ 継続	回目 (前回 /)
相談者名			
相談対象	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 子ども () <input type="checkbox"/> 家族 () <input type="checkbox"/> その他 ()		
連絡先 (新規のみ記入)	住所 〒 () - ()	電話番号	
相談経路	①つどい利用時の本人からの相談依頼 ②スタッフからの発見 ③電話 ④FAX ⑤予約面談 ⑥その他 ()		
相談内容		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
対応内容		
		
		
担当者所見 今後の対応		
		
		

